

# 最新鋭の製材工場が稼働へ

## メツア・ファイバー

フィンランドの総合林産企業、メツア・グループのパルプ・製材部門であるメツア・ファイバー（イズモ・ノウジアイネンCEO）は、ラウマ（サタクンタ県）のパルプ工場に隣接して建設している製材工場が今年後半から稼働する。投資額は2億7100万6000円。従来比3倍速の製材ラインを備えた最新鋭工場で、製材生産能力は24時間稼働で年間75万立方メートル（ラフKD）。日本向けにはRウッド集成材用ラミナを生産する。販売を手掛ける伊藤忠建材（東京都、柴田敏晶社長）はメツアのRウッドラミナの供給量を従来比倍に増やすことを目指す。

## 伊藤忠建材はRラミナの供給倍増目指す

メツア・ファイバーは、フィンランド国内にパルプ4工場、製材5工場（ほかにロシアに1工場）を持つ。伊藤忠商事が株式の25%を保有し、針葉樹パルプをアジア市場に販売している。生産能力はパルプが年間320万立方メートル、製材が同180万立方メートル。7番目の工場となる新工場が稼働すれば、製材生産能力は

同255万立方メートルと従来比4割強拡大する。ラウマ工場が位置するフィンランド西岸には、Rウッドの丸太を製材するキロ工場（年産能力23万立方メートル）とメルカルビア工場（同25万立方メートル）の2つの製材工場があるが、パルプ工場に併設して製材工場ができれば、丸太の供給を一元化でき、工場の排熱利用や

輸送面での相乗効果が望に合った製品を生産見込める。

新工場の丸太消費量は年間150万立方メートル。隣接するパルプ工場の丸太消費量は同290万立方メートルで、ラウマ工場の合計の丸太消費量は同440万立方メートルとなる。環境に配慮し、最先端技術を駆使。伐採現場から製材段階まであらゆるデータを蓄積し、顧客の要

求に応じて生産する。新工場の丸太消費量は年間150万立方メートル。隣接するパルプ工場の丸太消費量は同290万立方メートルで、ラウマ工場の合計の丸太消費量は同440万立方メートルとなる。環境に配慮し、最先端技術を駆使。伐採現場から製材段階まであらゆるデータを蓄積し、顧客の要



**集成材**  
FSC SGEC  
FSC® C121389 SGEC/31-31-1007  
『緑の環境』 お問い合わせ下さい



**株式会社 ティ・エス・シー**  
〒292-0838 千葉県木更津市潮浜2-1-53  
TEL/0438-37-0206 FAX/0438-37-2349  
ホームページ <http://www.syusei-tsc.com>



日本向けに生産するのは、中断面集成材用

のRウッドラミナで、サイズは34×112、127×33以上。従来、Rウッドラミナはラップランタ工場とメルカルビア工場

で生産していたが、新工場を加えて供給の倍増を図る。導入する製材ラインは、ヒューソ（フィンランド）の分速240分の高速ラインで、ラインの障害や渋滞を事前に予測し、ロボットと自動運転装置で人手を介さずに復旧できるマシンビジョンを備えている。そのほか、丸太の形状に合わせた製材できるカーブソー、目視では分からない欠点をX線で検知するオートグレーダーなども導入する。

工場はラウマ港に近く、輸出入の製品は工場在庫せず、ラウマ港の倉庫に直接配送することで、物流も効率化させる。日本向け以外では、欧州やアジア向けに窓枠や家具などの素材を生産する。

販売を手掛ける伊藤忠建材は「集成材化の流れは今後も変わらず、ラミナ需要は拡大が見込めると見ている。森林先進国フィンランドから、使いやすく、歩留まりの高いラミナを供給することで業界に貢献したい」と話す。

ラウマ工場全景

のRウッドラミナで、サイズは34×112、127×33以上。従来、Rウッドラミナはラップランタ工場とメルカルビア工場

で生産していたが、新工場を加えて供給の倍増を図る。導入する製材ラインは、ヒューソ（フィンランド）の分速240分の高速ラインで、ラインの障害や渋滞を事前に予測し、ロボットと自動運転装置で人手を介さずに復旧できるマシンビジョンを備えている。そのほか、丸太の形状に合わせた製材できるカーブソー、目視では分からない欠点をX線で検知するオートグレーダーなども導入する。

工場はラウマ港に近く、輸出入の製品は工場在庫せず、ラウマ港の倉庫に直接配送することで、物流も効率化させる。日本向け以外では、欧州やアジア向けに窓枠や家具などの素材を生産する。

販売を手掛ける伊藤忠建材は「集成材化の流れは今後も変わらず、ラミナ需要は拡大が見込めると見ている。森林先進国フィンランドから、使いやすく、歩留まりの高いラミナを供給することで業界に貢献したい」と話す。

のRウッドラミナで、サイズは34×112、127×33以上。従来、Rウッドラミナはラップランタ工場とメルカルビア工場

で生産していたが、新工場を加えて供給の倍増を図る。導入する製材ラインは、ヒューソ（フィンランド）の分速240分の高速ラインで、ラインの障害や渋滞を事前に予測し、ロボットと自動運転装置で人手を介さずに復旧できるマシンビジョンを備えている。そのほか、丸太の形状に合わせた製材できるカーブソー、目視では分からない欠点をX線で検知するオートグレーダーなども導入する。

工場はラウマ港に近く、輸出入の製品は工場在庫せず、ラウマ港の倉庫に直接配送することで、物流も効率化させる。日本向け以外では、欧州やアジア向けに窓枠や家具などの素材を生産する。

販売を手掛ける伊藤忠建材は「集成材化の流れは今後も変わらず、ラミナ需要は拡大が見込めると見ている。森林先進国フィンランドから、使いやすく、歩留まりの高いラミナを供給することで業界に貢献したい」と話す。